守ろう、命とくらし

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話(53)3033番
(53)3034番
編集兼発行人　前川哲也
半年間1,200円　送料共

上村裁判は再開へ

坑内火災裁判は吉田証言

大災害裁判公判日程は、次の通りです。

上村裁判再開公判　六月二十二日午前十時から、福岡高裁で。結審となったものの、会社の提起で再開される公判。

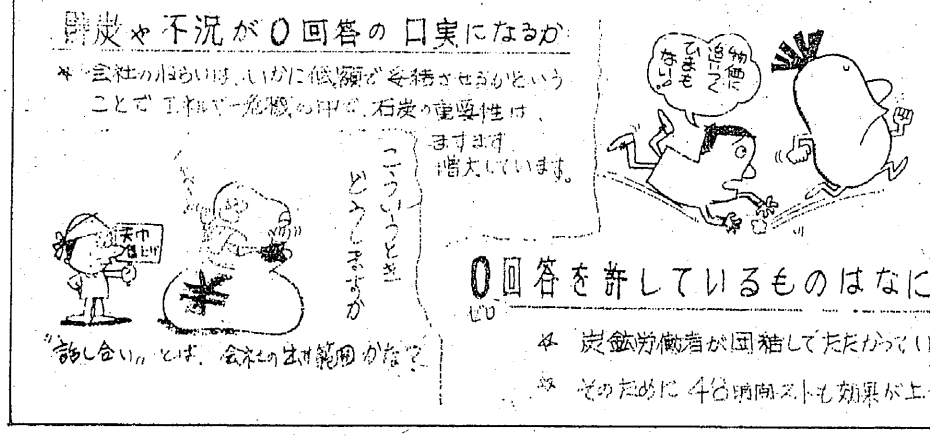
九・二八坑内火災裁判　七月五日午後一時から、福岡地裁で。吉田曙病院院長の証言。

大災害裁判公判　事情があって、伏せさせていただきます。

日刊みかわ

NO.217
1979.5.12
三池労組
三川指導部

いま、春闘に全力を！
賃上げが必要です。



活躍する三川指導部の新聞〝日刊みかわ〟。春闘には絶対不可欠な新聞だ。下は、同指導部の春闘アピール。闘いはこれから。

納得できぬ賃金抑制

命奪われた四人の仲間

人間らしいくらしをとのぞみながらも、三池の職場には春闘への気組の弱さが濃く陰をうっている。そのため各職場新聞も、何とか全労働者を闘いに結集しようと努力を重ねている。別項はそのなかの一つ、四山四分会の〝あしおと〟の記事である。

新聞〝あしおと〟の主張

賃金＝一万四百円（月九千円）
災害弔慰金＝三千万円
家族手当＝三千円
労働時間＝八時間

この炭労の要求に対して、会社は円高で、外国炭との格差が大きく、国内炭の需要が少く、貯炭がふえて、運転資金繰りもむずかしい――といって、ゼロ回答をしています。

自民党政府と独占資本は、安い外国炭を国内の企業に使用し、わが国唯一のエネルギーである石炭をないがしろにしています。

また、日本の労働者の労働力を安く買いたたいています。そのため労働力を売って生活している私達の家計は、メチャクチャです。

危険な坑内で、命をかけて働いていながら、その石炭が売れないから、では納得できません。石炭の売買については、自民党政府と独占資本が責任をもち、労働者の命と生活を保障するのが当たり前です。

会社は、福利厚生面で次の合理化を押しつけてきました。

一般営繕＝三〇％減
特別営繕＝六千三百万円減
社宅料金＝月五百円徴集する
保育料＝百円値上げ（月に千円となる）

また、職場でも次のような合理化を押しつけてきました。（定年者が相次ぎ、人員減少）
資金・資材の節約。
賃金抑制。（請負給の切り下げ、賃上げの抑制、残業や公休日出勤の規制）
労働強化。（時間内の超作業目標達成。人員減）

以上の結果、次のように一カ月のうちに四名もの罹災者（死亡）が出ています。

三月十二日、三川の堤政義さん
三月十六日、有明の森田和夫さん
三月二十六日、四山の吉田信夫さん
四月十一日、有明の西山伊三男さん

特に三月十六日に死亡の森田さんの場合は、九十キログラムもあるレール梁を一人でかついでの罹災でした。普通、体重六十キログラムの人で、かつぐのは四十～五十キログラムがやっとではないでしょうか。会社の人命軽視は余りにもひどすぎます。

四山鉱では七月からはスライシング払（二段式払）も始まり、人員の移動もいわれています。命と生活を守るために、春闘とともに反合理化闘争に頑張ろう。

1万円越す春闘相場

賃上げ・コンピュータ集計

春闘共闘は、四月下旬の交運・公労協の春闘決戦を越えた時点、（二十七日）での民間組合の賃上げ回答・妥結状況をコンピュータ集計したが、各組合の最後の追いこみぶりを反映して妥結組合が急増、その金額も一万円をかなり上回る水準に達していることが明らかとなった。

×

集計によると、四月二十七日現在の妥結組合は、コンピュータ登録組合の約半数である七十六組合。その平均妥結水準は単純平均で一万一千百二十五円（六・八％）、加重平均で一万二百七十三円（六・四％）。未妥結の組合も合わせた総平均では単純一万五百十二円（六・五％）、加重九千九百十二円（六・一％）。

新聞、民放、出版などマスコミ関係が一万八千円～一万六千円の水準を保って相かわらず好調のほか、合化労連、全国セメント、全石油、観光労連、ホテル労連なども加重、単純平均とも一万円の大台を大きく越えている。他方、不況にあえぐ造船は妥結もまだ二組合で八千二百六十円、四・七％と低くおさえられている。

春闘は五月に入って、全鉱、炭労など後発組合と地場の中小組合が決着へと向かうが、ことしの春闘相場はほぼ一万円の水準で確定しそうだ。

国鉄を国民の手に

また料金値上げ

五月二十日（予定）から、国鉄がまた料金値上げ。

こんどの値上げの特徴は、遠距離区間を抑えて、近距離のアップ率を高くしたこと。初乗りが百円になろうが、百二十円になろうが、利用者は乗らないわけにはいかない。そこを、ちゃんと心得えてのこんどの値上げだ、と見る向きもある。

もともと国鉄は国民の財産だ。だから一国鉄や一運輸省の問題でなく、国民全体でその財産をどう運用していくか、こう考えるべきだ、との意見が出ている。

も早や、黙っているときではない。国鉄は一日も早く、国民の手に取りもどす闘いこそ起こすべきだ。

知恵

運転上手でガソリン節約

自動車の消費するガソリン量は、石油に換算すると全輸送機関の七五％も占めています。ドライバーの心がけや運転しだいで、ガソリンの節約になります。

①無理な加速や急ブレーキは避けましょう。ガソリンのムダとタイヤの摩耗を早めます。

②空ぶかし五十回で、ガソリン二百～二百五十CCのムダ。この量で中型車なら二キロ走れます。

③エンジンをかけたままの駐車はやめましょう。一分間で約十～十五CCのガソリンのムダを招きます。

×

▼…右の知恵は、経済企画庁国民生活局国民生活政策課が発行した資料――〝暮らしの知恵〟（小パンフレット）から拾ったものです。余りよい知恵ではないかも知れませんが、このようにみんなでこの欄に、真に光る働く者の知恵をもち寄りたいものです。人それぞれに、またいろんな印刷物には、きっと「ハッ」と思わせる知恵がかくれているに違いありません。一つの知恵をみんなで活用する、これも大事なことです。